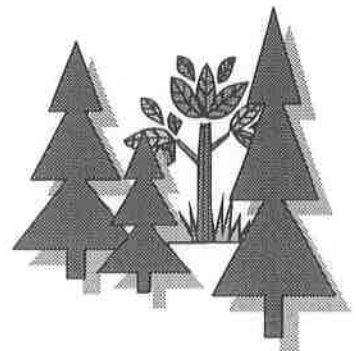


ひがし大雪エコミュージアム構想

北海道上士幌町



目 次

| | |
|---------------------------------|---|
| 1. はじめに | 1 |
| 2. ひがし大雪エコミュージアムの基本構造 | 1 |
| 3. メインテーマの設定 | 2 |
| 4. 4つの地域とテーマ | |
| ①「大地の恵み」エリア | 2 |
| ②「自然理解と自然体験」エリア | 3 |
| ③「ひがし大雪の道」エリア | 5 |
| ④「自然体験と自然保全」エリア | 6 |
| 5. ひがし大雪エコミュージアム構想のめざすもの | 7 |
| 6. ひがし大雪エコミュージアム構想の導入により期待されること | 8 |
| 7. ひがし大雪エコミュージアム構想の今後の対応 | 8 |

添付資料：ひがし大雪エコミュージアムの基本構造図



伊勢土産株式会社

ひがし大雪エコミュージアム構想とまちづくり

1. はじめに

これまで、私たちは地域産業の振興や経済発展のために労力を注ぎ、その恩恵を十分に受けてきました。しかし、そのことは自然環境に負荷をかけ、自然の喪失や森林資源の衰退などに顕著に現われ、私たちの予想をはるかに越えるところまで自然環境の悪化は進行しています。

私たちは、この状況を真摯に見据えて、この課題を健全な形で次世代に引き継いでいく責任があると考えなければなりません。

平成14年度からスタートした上士幌町第4期総合計画では、町民から優れた資源として第1番にあげられた「自然環境」を活かすため、まちづくりの基本目標のひとつとして「豊かな自然と恵まれた環境を守り育てる」ことを掲げてきました。

これらの背景を踏まえて、本町の国立公園に位置する各地域や周辺農村地域が持ち合わせている地域個性と資源を有機的に連携し、地域住民参加型で活用を行うこととしました。

例えば、エコミュージアムセンターなどにおいて自然を学び、周辺に点在する地域資源にふれる体験などを通し、森林再生など自然保全のあり方を知ることができる仕組みづくりなどがあります。

このように本町のひがし大雪地域及び周辺をひとつの領域とし、地域博物館（エコミュージアム）として位置付ける構想を検討することとしました。

2. ひがし大雪エコミュージアムの基本構造

①テリトリー（領域）

エコミュージアムを展開する領域は、わが町の大雪山国立公園内とその周辺農村とします。

②コアセンター及びテーマセンター（地域で中心となる施設）

エコミュージアムの情報提供・広報運営・体験提供などの機能を備えた中核施設として、コアセンターやサブコアセンター及びテーマセンターを設けます。

③サテライト（地域資源）

地域に存在する資源をテーマに沿って位置づけます。

④トレイル（連絡道路）

テーマなどに沿って設けられたセンターやサテライト周辺に散策路などを設けます。

⑤ネットワーク・アクセス道路

コアセンターやテーマセンターとサテライトなどを結ぶ交通連絡網を充実します。

○ひがし大雪エコミュージアムの基本的な構造図は別途添付

3. メインテーマの設定

構想の策定にあたり発掘された、地域資源は次のとおりです。

自然系・・・山岳、森林、川、温泉、鳥、動物、魚、昆虫、植物、永久凍土、火山、丸山噴泉塔

体験系・・・公園、散策、湖、登山、温泉、生き物、永久凍土、森づくり、食べ物、キャンプ場、スキー場、工房、グリーンツーリズム、熱気球

歴史系・・・発電ダム、文化、アイヌ、黒曜石、旧国鉄士幌線、コンクリートアーチ橋梁群、開拓、博物館、資料館、十勝監獄跡

景観系・・・峠、湖畔、森林、溪谷

本エコミュージアム構想では、ひがし大雪及び周辺の領域で連携した取り組みであることと、この広い領域が一体となって構想を盛り立てていくために、各地域共通のメインテーマを以下のとおり設定します。

「自然を知り、体験し、保全する」仕組みにふれる地域博物館

－豊かな自然と恵まれた環境を守り育むための自然体験・学習活動を行う場づくり－

4. 4つの地域とテーマ

エコミュージアムを展開する広大な領域の中に、地域特性に基づき4つのエリアを設けました。各エリアでは、それぞれの特性を生かした魅力ある地域づくりを行うとともに、他のエリアとの有機的な連携をはかります。このネットワーク・アクセス道路は、現行の道路網を基本として、国道273号線を基幹に道々、町道、林道や散策路を効果的にネットワーク化します。

1) 「大地の恵み」エリア・・・ひがし大雪山麓に広がる農村地区・ナイタイ高原牧場

〈大地から生まれる食べ物を学ぶ〉

－自然に恵まれた大地からつくられる「食」づくりを知り、体験する－

大雪山国立公園から南は北十勝平野が広がっています。ここでは畑作や酪農などが盛んで大きな耕地が広がっており、農業経営としての農畜産物生産の仕組、農畜産物の加工・流通などのあり方を知ることができます。一方農業が持つ多面的機能を通して農業体験、農家民宿、農畜産物加工などの体験などから大地から生まれる食べ物を学び、放牧や耕地防風林など景観の良さを知ることができます。

◇サブコアセンター

●ナイタイ高原牧場（計画）

〈課題の要点〉

- ・ ナイタイ高原牧場は、観光客の受け入れを周年で対応することなどを含めて、レストハウスやトイレの整備などを検討する必要があります。

優れた地域素材による安心で安全な食べ物の提供の仕組みづくりなどを検討する必要があります。

牛や羊など家畜とのふれあいが可能なふれあい牧場機能の整備を検討する必要があります。

牧場内の保安林道路や作業用牧道の開放などによる、牧歌的なトレイルコースの整備を検討する必要があります。

◇テーマセンター候補

●上士幌町農業技術研究センター ●上士幌町航空公園 ●郷土資料館

〈課題の要点〉

- ・ 上士幌町農業技術研究センターは、農畜産物の加工体験への開放などや、新たな地域食材資源の加工開発の拠点づくりを目指し、その為の仕組みや運営組織づくりを民間活用も含めて検討する必要があります。
- ・ 上士幌町航空公園は、熱気球をはじめとするスカイスポーツ体験の基地として、民間主導の組織づくりと具体的な運営体制を検討する必要があります。
- ・ 郷土資料館は、町の歴史を知るための貴重な場所となります。地域のボランティアなどで管理運営ができる仕組みづくりを検討する必要があります。

◇ サテライト候補

【食を楽しむ】農家レストラン、ナイト高原レストハウス、上士幌町農業技術センター、農家加工施設

【農業を体験する】グリーンツーリズムネットワークの各拠点、ナイト高原牧場

【景観を保全する】耕地防風林、ナイト高原牧場、町民の森づくり

【空から大地を観る】上士幌町航空公園、上士幌フライトセンター

【歴史を知る】郷土資料館、ウタリの森、嶋木遺跡

◇トレイルの位置づけ

- ・ ナイタイ高原牧場周回道路や牧場内保安林管理用道路などの活用をめざし、牧歌的な散策路の整備を進めます。
- ・ 上士幌グリーンツーリズムネットワーク参加者を中心に、既存の道路を活用した体験型周遊コースの設定を進めます。
- ・ 航空公園などを基地として、熱気球やヘリコプターなど地域のスカイスポーツなどとリンクした北十勝平野上空遊覧体験の受け入れ体制の整備を進めます。

2) 「自然理解と自然体験」エリア・・・黒石平発電所周辺・糠平温泉街周辺・糠平湖

〈温泉やダム開発などによる地域の歴史や自然の変化を学ぶ〉

－温泉やダム開発による歴史や変化した自然を理解し自然体験をする－

この地域は早くから国立公園に指定され風光明媚で豊かな自然に恵まれていましたが、糠平温泉街の開発にあわせた交通網の整備やダム建設による人造湖・発電所の出現など、自然形状の変化が多様に展開されたところです。また、この地域は宿泊施設を中心とした温泉市街地が形成され、観光客のニーズを受け入れるべき自然体験ガイド事業・温泉

体験めぐり・森の中の温泉街づくりなどの個性化を目指した取り組みを行っています。

自然や歴史を学ぶためのひがし大雪博物館・鉄道資料館や旧国鉄士幌線跡地と北海道遺産として選定されたコンクリートアーチ橋梁群は、北海道長距離自然歩道の拠点として、その活用に向けた検討が地域住民団体を中心に進められています。

◇コアセンター候補

●ひがし大雪エコミュージアムセンター（計画）

〈課題の要点〉

- ・ ひがし大雪博物館は、施設の老朽化に伴い建て替えを検討していますが、現在と同様の博物館として建て替える場合、国や道の補助金などによる支援制度がありません。

自然環境を生かした情報提供などを行うエコミュージアム関連事業などは環境省の管轄事業であり、環境省事業においてエコミュージアム構想の一環として実施してもらえるよう要請する必要があります。

エコミュージアムセンターは、ある程度の博物館機能を取り入れることが可能な事業であることが予測されますが、制度上取り込むことのできない研究機能や収蔵機能などについては、北十勝 4 町振興対策事業等に係る北海道支援などを含めて、町単独で仮称博物館研究センターとして整備を検討する必要があります。

エコミュージアムセンターの管理運営は、環境省・町（博物館）を中心とした仮称エコミュージアム運営協議会を設置し、活動プログラムの実践などは、ひがし大雪自然ガイドセンターとの連携を検討する必要があります。

◇テーマセンター候補

- 上士幌町鉄道資料館 ●ひがし大雪自然ガイドセンター ●糠平温泉文化ホール
- 糠平温泉スキー場 ●トレイルセンター（計画） ●（仮）博物館研究センター

〈課題の要点〉

- ・ 上士幌町鉄道資料館は旧国鉄士幌線における鉄道の歴史の足跡と役割などを中心に記録保存を行います。また北海道長距離自然歩道やコンクリートアーチ橋梁群の情報発信基地として、施設の運営と合わせて解説や情報提供が一元化できる運営を検討する必要があります。

- ・ ひがし大雪自然ガイドセンターは、新たな体験観光などに対応する個性ある組織であり、ひがし大雪エコミュージアムセンター及び十勝三股森隣館と連携した体験指導部門を担う組織として位置づける必要があります。

- ・ 糠平温泉文化ホールは、周辺施設の整備と合わせてその連携と効果的な活用について十分な検討を行ない、その位置づけを明確にする必要があります。

- ・ 糠平温泉スキー場は、民間施設としてスキーなどの体験のほか、情報発信の場として活用する必要があります。

- ・ トレイルセンターは、北海道長距離自然歩道の総合案内センターとして整備検討を進める必要があります。

- ・ 博物館研究センターは、エコミュージアムセンターにおいて展示・解説機能などで補完のできない、ひがし大雪博物館が持つ展示・調査・研究・収蔵などにかかる機能を新たに整備する必要があります。この機能を補完するために必要な施設となります。このセンターはエコミュージアムセンターにおける、展示などの説明や管理などの効率性をふまえてエコミュージアムセンターと連携して設置する必要があります。

◇サテライト候補

- 【自然に安らぐ】糠平湖、温泉、ぬかびら小鳥の村、湖畔園地、黒石溪谷、白樺林
- 【自然を体験する】ひがし自然大雪ガイドセンター、周辺山岳、糠平温泉スキー場、ぬかびら小鳥の村、糠平湖・糠平野営場・ぬかびら八十八ヶ所の森、旧国鉄士幌線跡地
- 【自然を学ぶ】ひがし大雪エコミュージアムセンター、(仮) 博物研究センター
- 【歴史を知る】糠平ダムと発電所、音更山道碑、上士幌町鉄道資料館、コンクリートアーチ橋梁群、旧国鉄士幌線跡、ひがし大雪アーチ橋友の会
- 【自然保全を学ぶ】エコミュージアムセンター、森の中の温泉街づくり

◇トレイルの位置づけ

- ・旧糠平駅周辺を糠平地域の核として、幌加地域及び十勝三股地域までつながる旧国鉄士幌線跡地については、北海道長距離自然歩道として活用することを住民主体で検討し整備を進めます。
- ・ぬかびら小鳥の村を中心とした既存のトレッキングコースの整備を進めます。
- ・ぬかびら八十八ヶ所の森散策道の整備を進めます。
- ・丸山橋からタウシュベツコンクリートアーチ橋につづく林道を活用したエコロードとして糠平湖左岸線散策道の整備を進めます。

3) 「ひがし大雪の道」エリア・・・幌加温泉周辺や旧国鉄士幌線幌加駅周辺を中心とする幌加地域

〈自然の変遷を知りゆっくり過去を振り返る機会を学ぶ〉

－自然の変遷を知り、森林の中で時速4キロのゆっくりした体験をする－

この地域は、国道273号線沿いにある道路情報センター（除雪センター）とニペツ山の山すそに温泉宿が2軒ある住民が大変少ないところですが、唯一鉄路やプラットフォームなどが残っていることから、旧国鉄士幌線跡やコンクリートアーチ橋を探索する中心基地となっています。また、森林に囲まれながら時速4キロメートル（徒歩）で感じることで自然と温泉を満喫し、癒しの中からゆっくり自分を振り返ってみる機会をつくれる場所として、北海道長距離自然歩道「ひがし大雪の道」の中心基地となります。

◇サブコアセンター候補

●国道情報センター（計画）

〈課題の要点〉

- ・国土交通省が国道273号の十勝側除雪ステーションに設置を予定している道路情報センターについては、国道情報を中心としながらも、ひがし大雪周辺での活動情報等を取り込めることが可能な施設整備となるよう要請する必要があります。

◇サテライト候補

- 【ゆっくり歩く】旧国鉄士幌線跡、同幌加駅跡、永久凍土、風穴、丸山橋周辺
- 【体験する】旧国鉄士幌線跡、トロッコ線路、風穴、周辺山岳、丸山墳泉塔
- 【自然に安らぐ】温泉、森林

◇トレイルの位置づけ

- ・糠平地域から十勝三股地域に至る北海道長距離自然歩道の拠点と旧幌加駅周辺のトロッコ活用について検討します。
- ・幌加温泉周辺の散策道整備やニペソツ山登山ルートの整備を進めます。

4) 「自然体験と自然保全」エリア・・・旧十勝三股市街地を中心とした十勝三股地域

〈自然体験を通して森林資源の変遷と保全や地域の歴史を学ぶ〉

－森林資源の伐採や自然の変化と地域の歴史を学び森林の保全や再生を体験する－

この周辺は山岳景観に恵まれ、登山体験を中心として多くの自然体験ツアーが行われています。この地域の中心である旧十勝三股市街地は、かつて森林資源の搬出による木材産業の活況で大変栄えましたが、今では2世帯のみが居住しています。

国立公園内の集団施設地区に指定されたことや、かつては多くの木材などを積み出した歴史的な背景などから、自然と産業にかかわる人々の変遷を学び知ることができます。

このように自然を体験し、自然を理解し、自然保全や再生に対する意識づくりと活動を培う場として、地域特性を生かしたプログラムを中心に自然環境に充分配慮しながら、この活用のあり方について検討を進めています。

◇サブコアセンター候補

●(仮) 十勝三股森隣館 (計画)

〈課題の要点〉

- ・旧十勝三股市街地周辺に自然観察と自然保全及び自然再生を中心としたフィールドづくりを行うためなど地域特性を生かした体験プログラムに基づき、必要最小限の施設整備を検討する必要があります。

本施設は、ボランティア団体やひがし大雪自然ガイドセンターなどが行う自然体験事業の中核施設として位置づけ、地域の森林保全・再生活動などを行う拠点としても活用します。

また、地域には登山などを中心とした多くのトレイル資源が豊富であり、登山者などや地域住民との交流施設及び地域コミュニティセンター機能としての活用が望まれます。

◇テーマセンター

●森林鉄道修理工場跡

〈課題の要点〉

- ・森林鉄道修理工場跡は、かつての森林資源を活用した施設として残っている唯一の歴史を物語る建物であり、この施設を活用した歴史展示機能などを検討し、十勝三股森隣館との効果的な連携を目指します。

◇サテライト候補

【自然を学ぶ】十勝三股地区及び周辺、永久凍土、十勝三股盆地の森林、巨樹巨木（ハルニレ）

【体験する】十勝三股森隣館及び周辺、周辺山岳、国有林ふれあいの森

【歴史を学ぶ】旧十勝三股市街地と周辺

【自然に安らぐ】三国峠、十勝三股盆地樹海

◇トレイルの位置づけ

- ・十勝三股森隣館を中心とした十勝三股集団施設地区内で自然を生かした散策路の整備を検討します。
- ・旧国鉄士幌線十勝三股駅周辺を含めて、幌加地域へ続く北海道長距離自然歩道として、住民や関係団体などによる検討会の意見を尊重した整備を進めます。
- ・三股盆地周辺山岳登山ルートの整備を進めます。

5. ひがし大雪エコミュージアム構想のめざすもの

ひがし大雪周辺は、戦後日本の復興と合わせ、国内森林資源供出の地域となり、このことにより、森林資源は急加速度的に衰退し、森林資源の枯渇した奥地の集落は必然的に消滅しました。

また、糠平温泉市街地を中心としていた温泉観光は、観光客の海外志向や高いグレードを求めるニーズに対応できず、厳しい経営を余儀なくされてきました。

一方、わが国における自然に対する考え方や自然教育のあり方は、地球環境の著しい悪化を十分に理解しながら、自然環境の回復や地球温暖化防止を真剣に考え、実行するまでになりました。また、わが国における観光スタイルは大きく変化し、例えば、団体行動よりも個人旅行を好むようになり、旅行者のニーズもエコツーリズムや自然体験型への関心が大きくなっています。

こうした人々の嗜好の変化に敏感に対応していくことが、地域の活性化のために必要不可欠であり、これらの課題に対応するために必要な地域資源は、ひがし大雪周辺に数多く点在しています。

すでに、体験観光の核となるNPOひがし大雪自然ガイドセンター・NPOひがし大雪アーチ橋友の会や森づくりを目指すグループ・温泉旅館組合などの活動が始まっています。

また、町は30年にわたってひがし大雪博物館を運営し、自然の仕組みを調査研究し展示しています。さらに、近代歴史的遺産として旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群が北海道遺産として選定され、多くの方々が関心を持ちはじめています。

こうした、地域資源や地域の歴史を効果的に結びつけるエコミュージアム（地域博物館）を創ることによって、糠平地域を中心としたひがし大雪地域及び周辺を自然保全及び自然再生の活動拠点とするとともに、その個性と魅力ある地域づくりを支える担い手

の育成を図りながら、「豊かな自然と恵まれた環境を守り育てる」まちづくりを進めていくことを目指します。

6. ひがし大雪エコミュージアム構想の導入により期待されること

①地域の自然学習の場の創設

エコミュージアムを地域住民が育てていくことにより、郷土の自然や歴史などへの理解が深まり、自然を守り育てていく行動が高まっていくことが期待できます。

②自然との共生の伝承

エコミュージアムでは、自然がもたらす森林、水、空気などの提供を安定的に受けていくために、自然との共生を目標にした自然教育を積極的に進めることができます。

③住民参画型地域づくりの推進

エコミュージアムは、地域の団体などが地域と連携し、協働して運営することが基本となります。このような運営を実践することから、地域内の交流はもとより、都市などからの来訪者と地域住民との交流が盛んになります。

④新たな地域間連携の推進

ひがし大雪エコミュージアムは、「自然体験・自然理解・自然保全」という独自のコンセプトがあります。このことによって、大雪山国立公園を取り巻く内外の領域や他の国立公園などの領域との差別化が図られ、ひがし大雪エコミュージアム領域内においては4地域が持つ特性を活かした連携を推進することができます。

⑤産業の育成と地域振興の推進

エコミュージアムでは、多彩な体験メニューが開発されることによって、地域産業の振興に加えて、新たな地場産業の創出も期待できます。

7. ひがし大雪エコミュージアム構想の今後の対応

- ・行政内エコプロジェクトで引き続き本構想の検討を行います。
- ・地域住民との意見交換会を行い本構想の必要性や今後の対応について検討します。
- ・本構想について、関係行政機関や民間機関へ説明を行い、構想の認知を受けます。
- ・構想のテーマに沿った部門別の整理を行い、関係行政機関などへの具体的な要望に向けた作業を進めます。
- ・行政内エコプロジェクトでアクションプログラムを検討し、要望の精度を高めます。
- ・地域住民と意見交換や検討会を開催し、アクションプログラムの精度を高めます。